

私の出会った人たち

(3)

関谷啓子

先日、秋の日差しに浮かれてぶらぶら歩いている、素敵な高齢者とすれ違った。
白髪を低く纏め、颯爽と歩いている。一体彼女のどこに惹かれたのかなあ〜と思いつつ暫く後をつけた。
着物をリフォームしたらしいチュニックとスカートが素晴らしくカッコよかったからだと気づいてからは、ますます気になって追い越して振り返ったり、後ろ姿を見ながら、、、と離れられなくなった。
彼女もどうやら気づいた様子。
仕方なく声をかけた。
素晴らしい服でさっきから後をつけてきました。
お見受けするに、ご自身で縫われたように思うのですが、型紙があつたら分けてくださいませか、、、と。
気味悪いと誤解されるのも承知だったが、にっこり笑った彼女は
「良いですよ。よく街中でもあなたと同じ事を頼まれるの」と言ってくれた。
早速住所のメモを渡し、我儘な頼み事を詫びつつ別れた。

後日、友人にこの話をすると「それってストーカーだよ。よく逃げられなかったわねえ〜」と感心された。
エエッ、そうなの？これってストーカー??
私はただ、素晴らしい服に惹かれたこと、今声をかけなければ一生後悔すると思ったからだけなのに、、、。
夏に東京で「ひとりぶんをちゃんと生きよう おおよそ70の女たち これからは面白い！」という長いタイトルの集会があつて友人四人で参加した。
その中でオオタスセリという歌手が「ストーカーと呼ばないで」という歌を聞かせてく

れた。

歌詞が心に沁みて思わず涙ぐんだのだったが、言葉って不思議。

ストーカーという言葉ができると、一人ひとりの気持ちやらその時の状況やら考慮せずに何もかも一括りにしてしまう。

言葉が全てを囲い込んで新しい状況を作り出す恐怖を感じた。

型紙が送られてきたかって??

ハイ、写真やらお手紙やら沢山の資料と一緒にちゃんと送ってくださった。

細やかな心遣いの手紙も添えて。手紙は「あの折の数分間、面白く楽しい時間が過ごせうれしいことでした」と結んであり、心に残った。

どんな人とどのように出会うか、、、と私は思うのだが、その始まりも世間ではストーカーと呼ぶのかなあ～。

ちなみにその後も手紙のやりとりは続いている。

なるべく早くチュニックを仕上げて、偶然街ですれ違った時、縫い上がったチュニックを着ていると最高なのだが、、、。

そんな偶然はないかなあ～。